

と し ょ か ん 宇 治

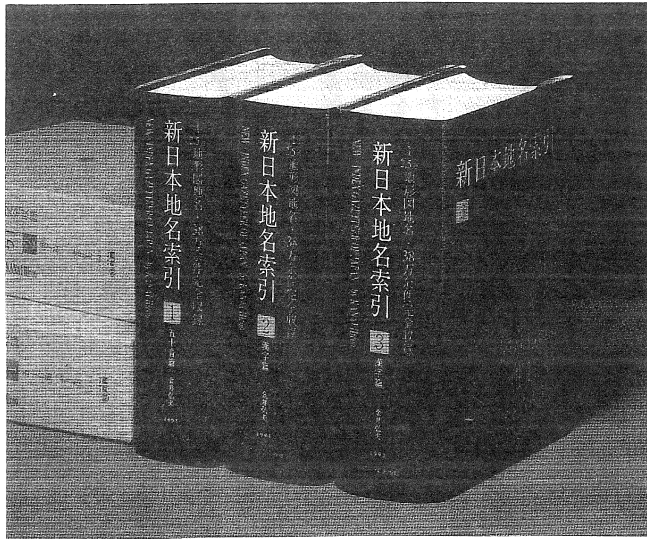
No. 32

1994年3月15日発行
宇治市中央図書館
〒611宇治市折居台1-1
0774(20)1511

宇治市東宇治図書館
〒611宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774(32)2232

充 実 して きた 参 考 図 書 ・ 資 料 集

全国の38万余件がひける『新日本地名索引』



参考資料室に入った『新日本地名索引』

中央図書館の参考資料室に、最近ユニークな事典類が入りました。ひとつは

『新日本地名索引』全三巻(アボック社)です。これは国土地理院発行の二万五千分の一の地図にでてある地名をすべて収録し、五十音順および漢字の字画順に並べた本で、全国の約三十八万五千の地名とその位置がすぐひける便利な事

東洋文庫(平凡社)全巻そろろう

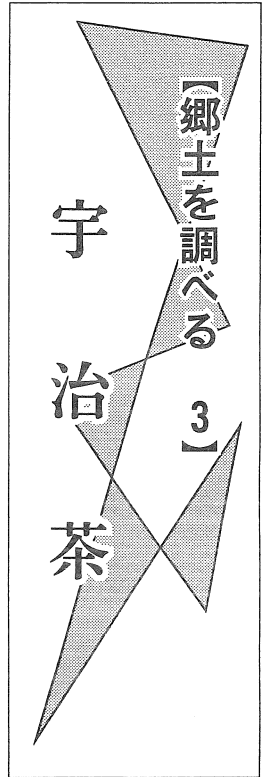
『JAPAN』は英文の日本大事典

典です。漢字検索は、地名の先頭だけでなく、中に含む文字も引けるので、これを使って全国の「藤」「猪」などの字が入った地名分布図を作ることも可能となります。

ふたつめは、英文の日本についての大事典である『JAPAN』(講談社)。一万一千項目がわかりやすい英文で書かれ、アルファベット順に配列されています。カラー図版も豊富で、英語で日本を紹介したい時に役立つ本です。

一方、開架室にも資料価値の高い文庫がそろいました。日本、中国、インド、イスラム圏におよぶ東洋の古典を現代語訳した平凡社の東洋文庫は、昭和三十八年の創刊以来、現在まで約五五〇冊刊行されていますが、中央図書館ではこのほど全巻を一括して購入しました。アジアの英知を東洋文庫でお楽しみください。

宇治市図書館は、気軽に読める本とともに、参考資料の充実を計り、市民の調査研究の場ともなれるよう努力しています。



宇治の代表的な産業である「宇治茶」は、栄西禅師が宋から持ち帰った茶種を明恵上人に与え、明恵上人が宇治の地に植えたのが、その起源とされています。これがやがて宇治が茶の中心として栄える機縁となり、八百年の歴史と伝統を誇っています。

江戸時代に永谷宗圓がはじめて「煎茶」をつくり、喫茶の習慣が広く庶民に浸透して、茶の生産の拡大と共に「宇治煎茶」の名声も高まりました。

「夏も近づく八十八夜……」と歌われる五月、宇治の町は新茶の香りにつつまれます。近年は宇治の茶園も都市化の波で減少の傾向にあります。品質の向上、省力化による伝統産業の維持発展の努力がなされています。

今日、お茶は生活に深く根をおろし、欠くことの出来ないものになっています。また最近では、健康飲料として「茶」の効用が見直

されてもきています。

中央図書館では、歴史・茶師・製茶・茶湯・効用などさまざまな分野から「茶」を扱った資料を、郷土資料として収集しています。

■茶の歴史

「お茶のきた道」 守屋 毅

日本放送出版 昭和五十六年

「日本茶の伝来」 松下 智

淡交社 昭和五十三年

「日本茶業史」全国茶業会茶業部

昭和二十三年

「茶の世界史」 角山 栄

中央公論社 昭和五十九年

■茶業

「茶のつくり方」 竹村 弘二

京都府茶業会議所 昭和四十四年

「新茶業全書」改訂版

静岡県茶業会議所 昭和五十一年

「京都茶業写真総覧」玉井源次郎

京都府茶業組合連合会

大正十三年

「茶の生育診断と栽培」大石貞男

農文協 昭和六十二年

■茶の文化

「御茶壺道中記」 井上 六平

お茶壺道中保存会

「橋守八百年」 通円 良三

昭和五十七年

「宇治茶の文化史」(宇治文庫)

歴史資料館 平成五年

「風流茶話」 直江 晴男

静岡県茶業会議所

昭和六十三年

■児童むけ

「お茶をつくる農家」清水達也

ポプラ社 昭和六十二年

「くらしのなかのちゃ」江村芳子

童心社 昭和六十年

「宗圓さんとてんぐの茶づくり」

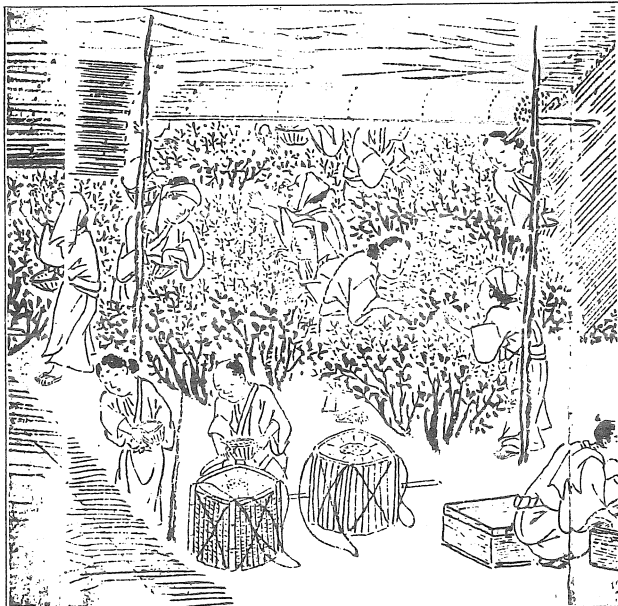
ひらのりょうこ 作

森林 忠 義 え

ふるさとの緑と文化を守る会

平成三年

※分類はすべてK六一九。参考資料室郷土資料コーナーに有ります。



製茶絵巻より (文化五年刊) 茶師 上林家蔵

この絵は女たちが歌いながら茶の葉を摘んでいるところで、抹茶が入念に製造されていく工程を順を追って描写している絵巻の一部です。

図書館へようこそ

利用者にインタビュー

第18回

胡紹華さん

東宇治図書館の近くには、黄檗山萬福寺がありますが、もう少し足をのばすと、京都大学があります。

今回は、中国上海市から来られ、基礎高分子を京都大学で共同研究されている胡紹華さんにお話を伺いました。



☆この図書館の感想を……身近に図書館があり、利用しや

すく、大変嬉しく思います。宇治の町を知りたくて自転車であちこち出かけます。中央図書館にも行きました。

本の予約制度には感心し、たくさん予約しています。

☆日頃利用されて、蔵書についてのご希望はありませんか？

専門分野の資料は、大学図書館を利用しますが、趣味の本、歴史の本など日本について知りたいと思うと、テレビより、本の方がわかりやすく、東宇治図書館の本をすべて読みたいくらいです。

☆中国の図書館事情は……

上海市では、市・区に図書館があり専門図書館・大学図書館などたくさんありますが、文化大革命後、閉鎖されたり、娯楽性のある本が少なくなりました。

新聞、雑誌を読んだり、趣味の本を読んだりして精神的に豊かになるために図書館は必要だと思います。

☆どうもありがとうございました。

これからも、どうぞよろしく。はい。読みたい本がたくさんあるので、時間がもつとあればと思います。中国へ帰国した際にも、日本の図書館の良い所を取り入れ、身近にたくさん図書館ができるように、運動したいと思います。



「視覚障害者のためのテープづくり」をテーマに話される水口館長

リーディングボランティア

講習会開催

三月九日、京都ライトハウス点字図書館長水口武夫氏を招いて講演会が開催されました。これは、リーディングボランティアの方を対象に毎年行なわれているもので、今回で七回目になります。

水口館長は、視覚障害者のためにテープを作り始めて二十年という長い経験をお持ちで、音声訳をする上でのポイント

を、御自分の体験を基にした具体例をあげながら説明され、参加された方も熱心に耳を傾けられました。また、「我々ボランティアは『視覚障害者の目の代わりをする』という事を



忘れられないように。」という締めくくりの言葉に多くの方がうなずかれ、大変有意義な講習会でした。

ジングル・ベルの歌声も

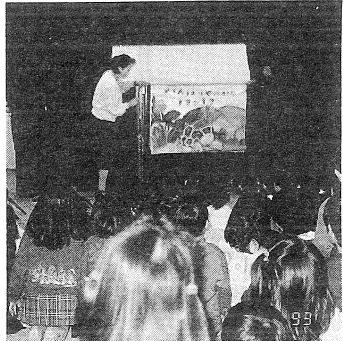
元氣いっぱいクリスマス会

去る十二月二十二日、恒例のクリスマス会におよそ六十名の子供たちが集いました。

これは、毎年「宇治児童文庫連絡会」「おはなしたまではこ」等サークルの方々といっしょに準備をして開催しています。

静かなお話に始まり、OHP、ペープサートなどクリスマス会ならではのダイナミックで見応えのあるメニューがずらり。

サンタさんより一足早いお話のプレゼントにニココリの一時間で



大型紙芝居に見入る子供たち

郷土のはなし

炭山の観音堂

炭山の小字久田に称名寺があり、この寺の境内に観音堂があります。この観音堂は、別に女人堂あるいは小醍醐寺・光堂とも呼ばれています。西国三十三所札所廻りをする巡礼者たちは、十番札所の三室戸寺を参詣したのち、次の札所である醍醐寺へ向かいますが、醍醐寺は明治初期まで女人禁制を行っていたため、女性は参詣することができません。そのため女性の巡礼者たちは、醍醐寺の代りに、この炭山の観音堂を参詣しました。そして次の十一番札所の岩間寺で男子巡礼者と合流したのです。

ところで、この観音堂の創建には次のような言い伝えがあります。炭山に住んでいた郷左衛門夫婦



には子供がなく、そのため郷左衛門は上醍醐の観音に子供が授かるようにと、長い間お参りしていました。そんなある夜、夢に一筋の光明とともに観音の姿が現れ「あなたの信仰に免じて子を授けましょう。光明の放つ場所に念じなさい」と言ったところで夢がさめました。不思議な夢を見た郷左衛門は、醍醐寺を訪ね遍知院の僧正に会い、夢の話をしたところ、この僧正も同じ夢を見たというのです。二人は上醍醐に登り観音堂を参詣すると、夢と同じ観音の小像が堂内に現われていました。二人はこの像を持ち帰り、光明を放ったこの地にお堂を建て安置しました。このお堂が炭山の観音堂だということです。

もちろんこの話の真偽は分かりませんが、札所参りや子宝に恵まれるようお参りする人々で、大変賑わっていたことには間違いありません。

しかし、明治に入り醍醐山の女人禁制が解かれたことや、大正には称名寺がこの地に移転するなど、時代の流れとともに、この観音堂にも大きな変化がありました。今では、お参りする人々は少なくなりましたが、それでも、建物や中に安置されている観音像だけは、昔の面影を残しています。

編集後記

◆ 駐車場所の都合でやむ無く休止していましたが、「開」ステーションが、所を変えて「日産開アパート東側」に一月より運行を再開しています。久しぶりの巡回でしたが、顔なじみの方や初めての方にも大勢来ていただきました。かわいい

◆ 今年も南京信平田佐吉財団から図書購入費として300万円の寄付をいただきました。平成元年より、児童文化の向上にいただいた寄付金は累計で二、五百万円になります。ありがとうございます。有効に使わせていただきます。

◆ お客さんも増え、活気のある車内です。

本をかりるには

一利用案内一

- ・市内にお住まいの方、市内に通勤通学されている方ならどなたでも1人5冊、かりられます。
- ・貸出券は、中央図書館・東宇治図書館・移動図書館の共通券です。

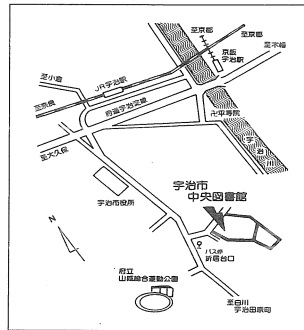
中央図書館・東宇治図書館

- ・貸出期間は、3週間です。
- ・開館時間は、9時～17時です。
- ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

移動図書館〔そよかぜ号〕

- ・月に市内25カ所を巡回しています。
- ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。
- ・次回巡回日に返却して下さい。

中央図書館



東宇治図書館

